

佐渡島における伝統技術・技能者データベース作成に向けた基礎的調査・研究 ～職人が案内する佐渡～

NPO 法人佐渡文化財研究所
事務局長 平原 匡

1:研究の目的と背景

佐渡は江戸期の金山発見により幕府直轄地として栄え、数々の歴史遺産が残る島である。本研究では佐渡の歴史の証である佐渡に残る伝統技術・技能を調査し、それらを持つ人（職人）をまとめた「職人データブック」の作成を試みるための基礎調査を行なうこととする。本調査によって得たデータ、技術・技能、人材は「職人が案内する佐渡」というテーマを念頭に、今後の佐渡の島内外人材交流、体験プログラムのメニューとして活用する。

職種	名前(姓のみ)	住所	ヒアリング	参考資料
1 船大工	木透	両津地区		越後の諸職
2 石工	金子	羽茂地区	二次調査へ	越後の諸職
3 陶器	清水	相川地区	×	越後の諸職
4	山本	相川地区	×	越後の諸職
5 菅笠	佐野	両津地区	×	越後の諸職
6	佐野	両津地区	×	越後の諸職
7 木挽(コビキ)	藤井	相川地区	×	越後の諸職
8	坂本	相川地区	×	越後の諸職
9 下駄(ゲタ)	菊地	相川地区	二次調査へ	越後の諸職
10 セナコウジ(背負運搬)	田中	相川地区	×	越後の諸職
11	中野	相川地区	×	越後の諸職
12 箆(タンス)	萩原	佐和田地区	×	越後の諸職
13	萩原	佐和田地区	×	越後の諸職
14 鬼面(オニメン)	明石	佐和田地区	二次調査へ	越後の諸職
15 藤箕(フジミ)	渡部	真野地区	二次調査へ	越後の諸職
16 船大工(フナダイク)	末武	小木地区	二次調査へ	越後の諸職
17 竹細工	数馬	小木地区	×	越後の諸職
18 竹刀	影山	小木地区	×	越後の諸職
19 盃舟	藤井	羽茂地区	×	越後の諸職
20 碁盤	伊賀	赤泊地区	×	越後の諸職
21 鍬柄	氏江	赤泊地区	×	越後の諸職
22	白井	相川地区	×	越後の諸職
23 塗師	服部	相川地区	×	越後の諸職
24	中川	相川地区	×	越後の諸職
25 石仏(せきぶつ)	岡崎	真野地区	×	越後の諸職
26 屋根葺(木羽屋根)	寺沢	金井地区	×	越後の諸職
27 屋根葺(草屋根)	余湖	畑野地区	×	越後の諸職
28 釣糸	市橋	両津地区	×	越後の諸職
29	門野	両津地区	×	越後の諸職
30 切紙	秀方	両津地区	×	越後の諸職
31 製塩	高橋	両津地区	×	越後の諸職
32 土人形	西橋	畑野地区	二次調査へ	越後の諸職
33 桶	城腰	金井地区	二次調査へ	その他文献より
34 石仏(せきぶつ)	笠井	真野地区	×	その他文献より
35 土人形	中川	真野地区	×	その他文献より
36 八幡箆	伊里	佐和田地区	×	その他文献より
37 陶器	其田	相川地区	×	その他文献より
38 陶器	根本	相川地区	×	その他文献より
39 文弥人形	岩崎	佐和田地区	×	その他文献より
40 山の織物	須田	佐和田地区	×	その他文献より
41 桐箆・和箆・船箆	松本	佐和田地区	×	その他文献より
42 和布仕立て	佐藤	両津地区	×	その他文献より
43 桶屋	須田	佐和田地区	×	その他文献より
44 茅葺職人	中川	佐和田地区	二次調査へ	その他文献より
45 茅葺職人	本間	畑野地区	二次調査へ	その他文献より
46 鍛冶屋	中橋	畑野地区	×	その他文献より

2:研究の方法

『新潟県の諸職-諸職関係民俗文化財調査報告書-』（※参考資料）を基礎資料として、佐渡の職人をリストアップ、その他の文献により追加抽出した。

(1次)

その後、リストに従い、訪問、ヒアリング調査、島内の「職人」の技能継承の現場を訪問調査した。(2次)

「新潟県の諸職」は新潟県教育委員会が昭和62年度～63年度に行なった無形民俗文化財調査の報告書。県下全域で154件の調査が行なわれた。

(右図:調査リスト)

3：調査結果

「新潟県の諸職」での調査によると、全県での調査対象者は約154件、島内での内33件が調査対象になっていた。八幡箆笥（やはたたんす）職人、桶、和船、鍛冶職など多彩であったが、リストを整理し、面会して、ヒアリング調査できたのは約1/3の9名。現役で活動している方はその半分以下の4名という結果であった。都合により面会できなかった方もいたことを考慮しても多いとは言えない数である。



▲調査対象の分類のイメージ

▼調査対象者（一部）

<p>桶職人／城腰さん（金井地区）</p>  <p>佐渡市指定無形文化財保持者。高齢ではあるが、現役で活躍。今でも販売を行なっている。</p>	<p>石工／金子氏（羽茂地区）</p>  <p>20年くらいまでは作っていたが、現在はやめている。家には現役だった頃の道具を多数所持。</p>
<p>茅葺屋根職人／中川氏（佐和田地区）</p>  <p>県選定保存技術保持者。佐渡で数少なくなった茅葺き職人。島内の茅葺き屋根を一手に担うが、後継者はなし。</p>	<p>竹細工／葛原氏（羽茂地区）</p>  <p>竹のおもちゃなどを製作。竹細工が本職ではないが製作。土人形も製作している。</p>
<p>彫刻／明石氏（佐和田地区）</p>  <p>代々続く宮大工の家系、彫刻技術が優れており、近年は鬼太鼓の「鬼面」の製作を手掛けていたが、現在は休止中。</p>	<p>土人形／西橋氏（畑野地区）</p>  <p>「新潟県の諸職」でも調査されている。数少ない現役の1人。精力的に製作を続けている。</p>

「新潟県の諸職」を中心として作成したリストをもとに調査を行なったが、高齢、又は死去を理由にヒアリング不可能な場合が多かった。県選定保存技術保持者である茅葺き職人の中川氏、佐渡市指定無形文化財の技術保持者である城腰氏は共に島内では「レッドデータ」とも言うべき希少な人材であるが、両人とも後継者が居ないため、今後の技術の継承が危ぶまれる。

4:「職人が案内する佐渡」に向けて

■試み①「再生建築ツアー」の実施

「職人が案内する佐渡」への試みとして建築職人案内する「建築ツアー」を行なった。これはNPO 法人古材文化の会との共催で行なわれた「再生建築研究集会」によるもの。島内の歴史的建造物、再生建築物件を携わった「作り手」が案内することで、佐渡の歴史的建造物の魅力をより深く伝えようという試み。



▲再建された能舞台の見学



▲ 職人の解説による建築見学 ▲



▲再生された古民家の見学



▲職人を講師とした勉強会

実施期間：2006年9月16～17日

参加者：島外20名 島内13名

主催：NPO 法人古材文化の会

共催：NPO 法人佐渡文化財研究所

■試み②サマースクール「佐渡木匠塾」の実施（2006年8月）

佐渡木匠塾は2004年夏から芝浦工業大学が岐阜県で行なわれていた木匠塾から佐渡にフィールドを移すことから始まった。現在は関東学院大学なども参加しているが、中心となっているのは芝浦工大の2研究室である。（藤澤研究室、蟹澤研究室）

島内に残る歴史的建造物の修理を学生たちが手がけることで、その作業を通して伝統的木造建築のつくりを学び、大学では学ぶことができない実物に触れることがサマースクールの特徴である。建築作業中に関わる地元職人・技術者からの指導、また、滞在中に生まれる地域との交流、共同生活から生まれる学生同士の交流は建築作業、修理するという単なる目的以上に重要なテーマである。



▲職人による指導



▲キャンパスでは学べない実技



▲建築された板塀

5；まとめ ～「職人が案内する佐渡」の可能性～

本調査ではリストに掲載されている佐渡の代表的な技能継承者にヒアリングをすることで、貴重な作り手の話を聞くことができた。データベースの構築、公開に向けて、さらに資料の収集、蓄積を行いたい。

1) 担い手不足

「佐渡木匠塾」や「建築ツアー」で試みたように講習会、ツアーの実施により、職人を訪ねる、昔の話を聞くなどの「体験」は可能である。しかし調査からも分かるように、リストに掲載される多くの「職人」が高齢化、または亡くなっているため、現時点での継承の様子が整理されておらず、メニューの多様化、その担い手を確保することが難しい状況である。しかし、その反面、陶芸や土人形など趣味の一環、さらにはその延長として販売品となるものには後継者が存在する場合が多く、既に「体験メニュー」となっているものもあった。

2) 要求される「コーディネーター」

技能・技術の継承に加えて、体験交流、ツアーとするにはコーディネーター役の存在が欠かせない。優れた技術を持つ「職人」が即、訪れる人を案内する「インタープリター」とはならない点が、その人の技術、技能の顕在化を困難にしている。体験学習、講習会などをコーディネートする人材、組織と優れた技を持つ職人の協働により質の高いメニューの実施が可能となる。

3) 「技」と「体験」の結びつき

陶芸体験や裂き織り体験、土人形など伝承されているものは修学旅行の体験メニュー、インテリアや工芸として人気のあるものが多く、担い手が多い。「裂き織り」体験や「陶芸」体験など修学旅行の定番人気メニューであり「体験」を行なう場所も定番化している。優れた「技」を見て、触れることができる機会を増やすことが求められる。

4) 「芸能の伝承」と「工芸の伝承」

佐渡の能楽、鬼太鼓などの伝承の例を見ると、「成果の発表」の場があるかどうか、伝承の仕組みに関わっていると言えそうである。製作物が多くの人の目にふれ、評価されることも必要である。

5) 「技」を残すための取り組み

職人の技術、佐渡の資源を活かした取り組みとして、(財)鼓童文化財団が行なう「アースファニチャー佐渡」がある。地元建具職人との共同により杉の間伐材を使い学習机、ベンチなどの家具製作を行ない、間伐材の有効利用への普及、啓発活動を行なっている。このような取り組みは今回調査した技術を継承する上で大いに参考になるものである。

【参考資料】

『新潟県の諸職―諸職関係民俗文化財調査報告書―』1989 新潟県教育委員会

【協力】 芝浦工業大学工学部建築工学科 蟹澤研究室

【謝辞】 本調査・研究にあたり、研究助成を頂いた北陸建設弘済会に感謝申し上げます。